

2010 年 10 月 7 日

総長候補者各位

立命館教職員組合連合
執行委員長 山本 耕平

立命館教職員組合連合からの「総長候補者への公開質問状」について

平素は、教職員組合連合の取り組み・活動にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

教職員組合連合はこの間、全構成員の参加のもと民主的に総長を選ぶことが出来るよう、「総長選任規程」を廃止し新規程を制定するよう求め、「新総長選挙制度策定に向けたフォーラム」や学習会などに積極的に取り組んできました。新たに制定された規程は、民主的な学園運営や教育・研究の高度化、業務改革や正課・課外活動の充実を求める教職員、学生の取り組みの大きな成果であると確信しています。

前回の「総長選任制度」では、学園政策や総長像、総長候補者の考え方について、十分な議論を尽くすことが出来ませんでした。また、「総長選任規程」の制定を前後して、学内合意が軽視され、議論不十分のまま重要な政策が次々と進められました。こうした事態により、学園構成員の参加意欲を削ぎ、学園執行部への信頼を失わせたと考えております。

これまでと同様に今次の総長選挙においても、教職員組合連合は、全構成員自治の重要な構成パートとして、学園像、総長像の議論や選挙人選出の取り組み等において積極的にその役割を果たしてきました。

教職員組合連合は、今回の「総長候補者への公開質問状」において、総長候補者の皆様が、学園政策や情勢をどのように捉え、教学理念をどう発展させようと考えておられるのかを教職員とともに共有することが、全学合意の観点からも重要であると考えております。

候補者の皆様からの回答につきましては、組合ニュース「ゆにおん」等で配布し、教職員や選挙人の投票の判断に役立つものと考えております。

つきましては、大変お忙しい中恐縮ではありますが、10月13日(水)までにご回答いただきますようお願いいたします。

記

1. 学園像について

総長候補者として、立命館の将来の学園像をどのように考えておられますか。また、その学園像をどのように具体化するのかについてお考えをお聞かせください。

2. 教学・研究条件について

全学的に検討されている教育・研究の質向上に向けて、教職員の自主性、創意性を最

大限引き出し、生徒・学生・院生が成長できる学園の創造が求められます。全構成員自治の原則に立脚し、教学優先を貫く、豊かな見識と人望を持った総長が求められています。

この4年間の教学展開・研究条件等の評価、また、今後4年間、教学、研究条件整備に向けてどのように取り組まれようと考えておられるかお尋ねします。また、現行中期計画の評価と、新中期計画（中間まとめ）の基本評価についてお考えをお聞かせください。

3. 学園の管理・運営について

本学園では、全構成員自治の具体化として、総長公選制、学部長理事制、全学協議会、業務協議会等の意思決定システムが機能してきました。この4、5年の学園運営は、それらの民主的な諸制度を形骸化し、総長・理事長・常務会のトップダウンによる意思決定によって、2005年の一時金カットの強行をはじめとする様々な問題が生じてきました。

昨年12月に総長・理事長はいわゆる信頼回復に向けた「3文書」を出されました。「3文書」で言われている学園トップと教職員の間の「信頼回復」、学園運営の改善は果たされたと考えられているのでしょうか。これらに対してお考えをお聞かせください。

4. 学費のあり方・奨学金政策、公費助成の取り組みについて

1979年の在学学生を含む毎年学費が値上げされる学費改定方式（Wスライド制）の導入のもと、学費額は父母の収入が減少するなかで年々上昇し続けてきました。この間の学費のあり方、決定方式の評価についてお考えをお聞かせください。

また、全国に先駆けて、理事会・教授会・院生協議会・学友会・教職員組合によって構成される「公費助成推進のための全学連絡協議会」のこの間の取り組みの評価と、今後の取り組む姿勢についてお考えをお聞かせください。

5. 「茨木新キャンパス」土地取得について

「茨木新キャンパス」土地取得については、7月末に突然提案され、10月末までに理事会で決定する方針であると同っています。今次提案では、討議時間がまったく不十分であり、新中期計画の中での位置づけやキャンパスコンセプト、全学合意がないまま決定されることに対し多くの教職員、学生から批判の声が上がっています。

このような状況で、「茨木新キャンパス」土地取得を決定することに賛成か反対かをお答えください。そのうえで、全学合意・全学構成員自治の観点から、今次提案の決定方法、特別委員会の提案内容に対する評価についてお考えをお聞かせください。

6. 教職員を励ます施策について

私たちの学園は、国民に開かれた学園創造をめざし、教職員が協働して取り組んできました。学園創造は、全学合意のもと、教職員の主体的な取り組みの中でこそ高い成果が得られると考えています。総意工夫あふれる教育・研究・業務実践に取り組む教職員を励ます施策等についてお考えをお聞かせください。

< 立命館アジア太平洋大学 >

1. 立命館大学を含む全国13大学が「グローバル30」に採択され、大学の国際化がいっそう推進されることとなります。立命館学園におけるAPUの位置づけやAPUの学生や教職員に期待することについて、お考えをお聞かせください。
2. 2008年の金融危機以降の世界的な経済不況と円高、国内および国外の大学との学生獲得競争の激化など、APUを取り巻く情勢は厳しい状況が続いています。これにより、相対的な入学者の学力低下が懸念され、現場の教職員たちは試行錯誤を繰り返しながら、日々の業務に奮闘しております。日本初の本格的国際大学であるAPUの今後の進むべき方向性についてお考えをお聞かせください。

< 附属校 >

1. 附属校出身学生への評価と今後の附属校政策について
立命館学園において、附属校出身の学生は様々な場面で大きな役割を果たしてきていると考えています。学園の理念である「平和と民主主義」の精神を体現する学生として、今後も様々な面で附属校出身の生徒が立命館学園で重要な役割をよりいっそう果たすべきだと考えています。附属校出身の学生が立命館学園で果たして来た役割への評価と、今後の附属校の総合政策についての考えをお聞かせ下さい。
2. 提携校政策の総括と今後の政策
ここ数年、立命館学園の提携校が増加しており、附属校と提携校との間で、生徒募集において競合する状況も一部で生まれています。現在までの学園の提携校政策の総括と今後の提携校政策についての考えをお聞かせ下さい。
3. 保護者の学費負担の軽減について
現在の附属校生徒の保護者の学費負担は限界に達しています。公立高校の授業料無償化のなかで、京都一の高学費となっている立命館宇治中高の学費をはじめ、附属校の学費の現状や、行政による私学への公費助成の増額に向けての考えをお聞かせ願ひ、今後の学費の値下げの具体的方策についての考えをお聞かせ下さい。
4. 非正規雇用の教職員の現状理解と専任率向上のための人事政策について
附属校での教職員は非正規雇用としての採用率が低くなく、教育の質の向上の面でも、長期的な視野で生徒の成長を見守り、教育実践の蓄積にも大きな困難を来している現

状があります。今後の専任率の向上のための人事政策についての考えをお聞かせ下さい。

5. 教育の質の向上に不可欠な教職員のゆとりを生み出す政策

附属校の教職員の多忙さは常態化しており、生徒や保護者へのゆとりのある対応をすることや教材研究のための時間の確保が困難な状況があります。教育の質の向上のためにも、生徒や保護者とていねいに向きあえる時間の確保など教育の本来の使命を果たすための、附属校の教職員のゆとりを生み出す政策についての考えをお聞かせ下さい。

6. 以下の各校の個別の課題についての考えをお聞かせ下さい。

- (1) 立命館中高の喫緊の課題である新コースの展開に伴う過大な教員の負担（補講や休日出勤など）の解消策および長岡京移転を展望しての立命館中高の将来政策のあり方と小学校とのよりいっそうの有機的な接続政策についての考えをお聞かせ下さい。
- (2) 国際化教育を推進してきた立命館宇治中高の教育の到達点についての総括的な感想をお聞かせ願うとともに、立命館宇治中高の将来政策についての考えをお聞かせ下さい。
- (3) FSC コースの設置などの立命館守山高校の政策の総括的な感想をお聞かせ願うとともに、立命館中高の長岡京移転により、生徒募集で競合する立命館守山中高の将来政策についての考えをお聞かせ下さい。
- (4) 公立優位の風土がある北海道において、優位な人材を輩出している立命館慶祥中高の教職員の格差賃金の解消に向けての決断をお聞かせ願うとともに、立命館慶祥中高の将来政策についての考えをお聞かせ下さい。
- (5) 今年度から立命館中高への卒業生を送り出した立命館小学校の現状への総括的な感想をお聞かせ願うとともに、今後の立命館小学校の将来政策についての考えをお聞かせ下さい。

以 上